

山形大学広報誌

みどり樹

Yamagata University Quarterly Magazine

Midori gi

vol.54
Winter 2012



特集

リーディング大学院に採択。
有機材料の未来を拓く
グローバルリーダーを養成。

研究室訪問／人文学部

ケア労働の在り方を見直し、
真の男女共同参画を追求。

一流の大学院の証、 リーディング大学院に 採択。 専門性と人間力を磨き、 有機材料の未来を拓く グローバルリーダーを 養成。

本学の「フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院」が、優秀な学生を価値創成グローバルリーダーに導くことを目的とした日本学術振興会の支援事業「博士課程教育リーディングプログラム（オンリーワン型）」に採択された。

全国から 38 件の申請があり、採択されたのは本学、
東京大学、千葉大学、秋田大学、長崎大学の 5 件のみ。
有機エレクトロニクス研究開発の集積地・米沢で
世界トップレベルの有機材料システム研究資源を生かし、
博士課程前期・後期一貫した大学院教育がスタートする。
研究では確固たる実績を上げている分野だけに、
教育においても大きな成果が期待されている。

日本学術振興会 「博士課程教育リーディング プログラム」とは

研究者の知的創造活動を総合的に支援する「日本学術振興会」が行っている支援事業の一つで、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え、広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くためのプログラム。国内外の第一級の教員・学生を結集し、産学官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進することを目的とするものである。博士課程を設置する我が国の国公私立大学が対象となり、申請を受けた日本学術振興会の博士課程教育リーディングプログラム委員会が審査・評価を行った上で、採択事業を決定する。養成すべき人材像及び解決すべき課題の分類に応じ、「オールラウンド型」「複合領域型」「オンリーワン型」の3つの類型で公募が行われる。

材料科学分野大学ランキング

	大学	平均被引用数	高被引用論文数
1	東京大学	50.91	34
2	東北大学	56.76	21
3	京都大学	56.57	14
	大阪大学	54.71	14
5	山形大学	49.00	13

大学ランキング 2013 年度版 (朝日大学出版)

高分子科学分野大学ランキング

	大学	被引用数/年	論文数/年
1	京都大学	915	151
2	東京工業大学	811	142
3	東京大学	521	76
4	名古屋大学	261	39
5	山形大学	220	48

大学のレベルを計る指標の一つとなるのが論文の被引用数。後の論文により多く引用されるほど、質の高い論文を発表している大学と言える。山形大学は、旧帝大と肩を並べる被引用数を誇っている。



フレックス大学院が育成をめざす「価値創成グローバルリーダー」とは

「フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院」が育成をめざす価値創成グローバルリーダーには、①高い問題意識と未来志向の使命感、②高度な専門性、③複眼的思考と価値創成実践力、④グローバル企画コミュニケーション能力という4つの資質が求められる。それらは旧来型のコースワークでは修得できない能力。フレックス大学院では、特徴ある教育プログラムで資質の強化を図る。

エネルギーや環境に対する高い問題意識と地球規模の福祉増進をめざす未来志向の使命感にあふれる人材

科学的視点と経済的視点、マクロな視点とミクロな視点、などの複眼的思考を持ち価値創成実践力を兼ね備えた人材

有機材料工学を主とし、電気電子工学、システム工学の基盤知識を備えた高度な専門性を駆使できる人材

国際交渉を有利に進めるグローバル企画コミュニケーション力を兼ね備えた人材



実力と実績と、そして訴求力で勝ち取った5/38の採択

大学が果たすべき使命の両輪といえば、教育と研究。本学工学部では、有機エレクトロニクスをはじめ、さまざまな分野の第一人者が先端的研究に取り組んでおり、その実績は他研究機関および企業などからも高い評価を受けている。こうした研究資源を生かし、今後は教育面でもより優秀な人材の輩出に力を注ぐべきとの考えから、日本学術振興会「博士課程教育リーディングプログラム」の公募に申請を行った。プログラム名称は「フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院」。有機分子やポリマーといった有機材料は、この30年の研究展開で優れた機能の付与が可能となり、金属やセ

ラミックを代替し凌駕しうる夢の万能材料へと成長を遂げつつあるものの、低コスト化、フレキシブル化など解決すべき課題は山積している。そこで、本学では未開の学問領域としてフロンティア有機材料システム分野を創成し、高度な専門性、実践的価値創成力およびグローバル企画コミュニケーション能力を持つ「価値創成グローバルリーダー」を養成するプログラムとして申請に着手。申請書類作成の指揮を執ったのは副学部長の神戸士郎教授。「山大をこうしたい」という希望やビジョンを持った若き教員たちを募って仕上げた資料は、気概に満ちていた。

千葉大学、秋田大学、長崎大学の5件のみ。リーディング大学院の仲間入りをしたことで、名実ともに一流の大学院として承認されたことになる。採択理由を見ても、本学が有機エレクトロニクス関連研究で優れた成果を上げていること、企業との連携を含めて先端有機エレクトロニクス材料・デバイスの研究拠点としての役割を果たしていること、学部や修士課程が中心であったこれまでの当該分野における人材育成を、本プログラムでは博士後期課程にまで広げていることなどが挙げられている。

すでに「有機材料システムの研究拠点」として国内外に知られていること、開講科目が200科目を超えているといった分かりやすい魅力に加えて、学内からは分からない工学部の強味を学外協力者からリサーチするなど、さまざまな角度からその優位性をアピールすることに成功したようだ。

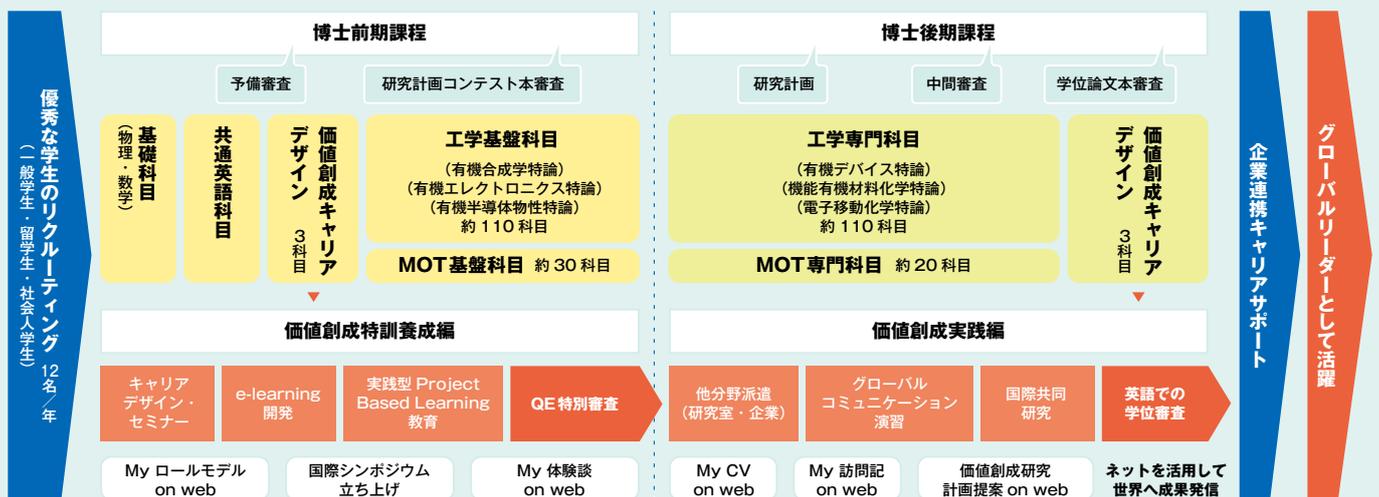
教育改革の一環として5年一貫のフレックス大学院

フレックス大学院の最大の特徴は5年一貫で、博士課程前期2年・後期3年と段階を踏む従来の大学院とは異なっている点にある。本学におけるこれまでの博士前期課程への進学率は約50%で、博士後期課程に至っては進学を希望しながらも経済的な理由などで就職してしまう学生もいるため、全学生の約10%に留まっている。その10%の博士後



飯塚博
いいつかひろし ●工学部長 / 大学院理工学研究科教授、フレックス大学院プログラムコーディネーター。秋田大学大学院鉱山学研究科修士課程修了、専門分野は機械工学・材料強度学。企業と連携し、植物性炭素粉体を用いた機能性素材を開発。

フレックス大学院のカリキュラムの流れ



フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院の10の特徴

すべての大学院開講科目から履修可能

多種多様な履修計画に対応するため、理工学研究科で開講されている全科目から履修を行うことが可能です。

進路を想定した履修計画の作成と評価

入学初年度に「キャリアデザインセミナー」を履修。具体的な進路を想定し、5年間で必要となる履修計画の作成・評価を行います。

博士前期課程・後期課程を合わせた5年間の一貫教育

フロンティア有機材料システム創成に関する5年間の一貫プログラムを通して、産官学で活躍できる「価値創造グローバルリーダー」を育成します。

きめ細やかな履修指導

専門コーディネーターやフレックス大学院担当教員によるきめ細やかな履修指導。学習・教育・生活支援は、全教職員が協力して担当します。

価値創成キャリアデザイン科目の新設

「キャリアデザインセミナー」「e-learning開発」「実践型PBL教育」「他分野派遣(研究室・企業)」などを新規開講します(必修科目)。

期課程修了者も専門性はあるが、社会や企業に適応できないといった評価も少なからず聞かれた。そこで、工学部では専門性に加えて人間力の強化が重要と考え、5年一貫でその両方を着実に積み上げていく教育プログラムを、フレックス大学院のカリキュラムとして創り上げた。博士前期課程から後期課程に進学するかを立ち止まって考える無駄もなく、修士論文を書く必要がないため、本来の研究を中断することなく継続できるなどメリットは大きい。また、フレックス大学院1年次にキャリアデザインセミナーで自らの将来像を設定し、5年間で何が必要かをじっくり考えた上でスタートできる点でも安心感がある。しかも、設定した目標を達成するために教員や先輩もサポートを惜しまないという。さらに、月15万円(予定)の報奨金支給や学費・研究費の支援、寮費の免除など経済的支援も充実しており、アルバイトに時間を費やすことなく、学修・研究に専念できる環境が約束されている。

教育システムの特徴と学修環境の4つのフレックス化

「フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院」では、主専攻・副専攻制を採用。入学時に主(メジャー)専攻と副(サブメジャー)専攻を決定し、主専攻・副専攻、いずれかを有機材料工学とすることで、全専攻から有機材料分野を必ず履修することになる。例えば、有機材料工学専攻を主専攻、MOTを副専攻とした場合、高度な専門性を育成するために有機合成学特論、有機デバイス工学特論、有機半導体デバイス化学特論などのメジャー科目を100%履修した上で、幅広い専門性を育成するために、ファイナンス特論、地域経営モデル特論などのサブメジャー科目を60%履修。さらに、人間力の育成のためにキャリアデザインセミナー、e-learning開発体験などの価値創成キャリアデザイン科目40%を履修することになる。トータル200%、つまり従来に比べて2倍の学修が必要になる。



神戸士郎

かんべしろう ●工学部副学部長(教育担当) / 大学院理工学研究科教授、大阪大学大学院理学研究科修士、理学博士。専門分野は超伝導物理化学。新物質合成と物性評価を行いつつ、分析や加工装置の開発で企業を応援。

そのため学修環境を整える4つのフレックス化が採用されている。①「履修計画のフレックス化」入学当初に学位修得後の価値創成グローバルリーダーとしてのイメージを明確化させ、5年間の履修計画を作成する。②「履修システムのフレックス化」理工学研究科の全講義科目の受講が可能(価値創成キャリアデザイン科目を新設)。③「学習機会のフレックス化」社会人・留学生などの多様な院生構成による自然なコミュニケーションを狙い、土曜授業、e-learning、院生寮での共同生活により、学びをグローバルに充実させる。④「修業年限のフレックス化」学生間で切磋琢磨する環境を整備するため、5年間の修業年限を4年で終える課程修了の特例を適用。学生の意志や意欲、自己裁量次第で

世界トップレベルの教育研究スタッフ



城戸淳二卓越研究教授
プログラム担当長

山形大学では、「世界初」の白色有機EL照明パネルの開発に成功し、高輝度下での長寿命を実現するマルチフォトンエミッション型有機EL素子を開発してきました。今後は、大気下での溶液塗布プロセスによる次世代有機EL照明の開発をめざしています。



時任静士卓越研究教授
プログラム副担当長

有機トランジスタは、低温かつ印刷法で作成可能な次世代トランジスタ。山形大学では、その高性能化の研究を行っています。特に、プラスチックフィルム上に有機トランジスタを集積化してフレキシブルなトランジスタの開発・基盤技術の構築をめざしています。



夫勇進准教授



中山健一准教授



伊藤浩志教授



古川英光教授



森秀晴教授



落合文吾准教授



田中賢教授

主専攻・副専攻制度の採用

主と副の2専攻に所属することにより、横断的な知識と技術の習得をめざすとともに、マーケティング、技術経営学などの知識習得も強化します。

国内外の企業インターンシップ

100社を超える国内外の協力企業ネットワークを駆使し、1か月間程度のPBL型インターンシップを実施。社会人基礎力と社会的知性を身に付けます。

学習機会のフレックス化

社会人、留学生などを含めた多様な人員構成とし、学生寮で共同生活を行うことでコミュニケーション能力と異文化適応能力を向上させます。

早期学位授与システムの活用

優秀な学生に対しては、5年間の修業年限を4年で修了できる「課程修了の特例」を適用。学生間の切磋琢磨する環境を制度的に整えます。

想定される進路

学生の個性や要望に応じた指導体制を強化することで、国内外の企業や大学、国際機関、省庁、公的研究機関などへの就職をめざします。

自在に組み立てられる自由度の高い学修環境が用意されている。このフレックス化を十分に生かして自己を高められる優秀な人材にこそ、フレックス大学院の門は開かれている。

教授陣や企業人、強力な布陣でグローバルリーダーを養成

価値創成グローバルリーダー養成をめざすフレックス大学院では、世界トップレベルの教育研究スタッフが指導にあたる。世界で初めて白色有機ELの開発に成功した城戸淳二卓越研究教授がプログラム担当長、有機トランジスタ研究の第一人者である時任静士卓越研究教授がプログラム副担当長を務める。さらに、有機エレクトロニクスデバイス、有機材料加工・機械システム、精密有機合成・高機能性有機材料、それぞれの分野からプログラム担当者、プログラム協力者として世界的教育スタッフが名を連ねている。また、2011年に開設された「有機エレクトロニクス研究センター」をはじめ、2013年開設予定の「有機エレクトロニクスイノベーションセン

ター」や「蓄電デバイス研究開発センター」など、研究施設の充実ぶりは他に類を見ない。

一方、価値創成グローバルリーダー育成のためのスタッフについても学内外から多彩な人材が集結。価値創成キャリアデザイン、フレックス大学院推進コンソーシアム、MOT、グローバルコミュニケーション、それぞれの立場から人材育成をバックアップしていく。特に、パナソニック、三菱化学、帝人などの大学院推進コンソーシアム参画企業には、インターンシップや実践型PBL(Project-Based Learning)の受け入れ、MOTやキャリアサービスセンターの支援を受けながら就職の斡旋も行うことになる。

優秀な学生を世界から第1期生リクルーティング

平成25年度4月にスタートするフレックス大学院は、今まさに第1期生のリクルーティングが進められている。第1期生はフレックス大学院の今後の雰囲気や勢い、カラーなどを大きく左右するキーマンになるだ

けに、リクルーティングには特に厳しい目が向けられている。定員12名のうち学内から6名以内を目標とし、その他を高専専攻科・他大学、社会人、留学生で構成する予定である。また、面接試験は、企業で活躍できる人材を育成するという観点から、企業が参画するフレックス大学院コンソーシアムによって実施されることになっている。

厳しいリクルーティングで選抜された優秀な学生を支援する体制も万全だ。担任制や研究、キャリアパス、進路の相談にのめるメンター制度を導入している。さらに、「大学院は出たけれど…」といった不本意な結果にならないように企業連携キャリアサポートなどを行うとともに、ポスドク(博士研究員)として採用することも検討されている。つまり、真の価値創成グローバルリーダーには、産業界・大学・研究機関など、幅広い分野で活躍することができる道が拓ける。フレックス大学院の成果を大学院教育全体に波及させ、本プログラム支援終了後も継続発展させてほしいものである。

世界トップレベルの研究施設



有機エレクトロニクス研究センター

工学部キャンパス内に設置された有機エレクトロニクスに関する最先端の基礎研究所。有機EL、有機太陽電池、有機トランジスタの主要3部門からなり、ノーベル賞級の卓越研究教授「ドリームチーム」を核とする世界に誇れる研究拠点。



有機エレクトロニクスイノベーションセンター

有機材料システム研究中心地の米沢市に基礎研究と企業をつなぐ「有機エレクトロニクスイノベーションセンター」が2013年春に開設する。最先端の研究活動を通して「有機エレクトロニクス研究センター」で培った基盤技術を、量産化技術まで発展・進化させるための研究を行う。



蓄電デバイス研究開発センター

2013年秋に開所予定の研究開発拠点で、リチウムイオン電池の長寿命、低コスト化を狙う。センターでは新型セパレーターの量産化に向けた実証実験を行い、今後5年をめどに技術の確立をめざす。生産コストを落とすとともに、性能を上げ、10年以上使えるリチウムイオン電池を目標としている。

人文学部

Faculty of Literature and Social Sciences

「人文学部ホームカミングデー 2012」を実施



人文学部では10月20日(土)に初めてのホームカミングデーを実施しました。

内容は、北川学部長による「人文学部の今」の紹介、開所を10日後に控えた「人文学部附属ナスカ研究所」とのskype中継、ふすま同窓会会長並びに4名の卒業生のみなさんとの公開シンポジウム「人文学部の昔と今、人文学部の魅力を語る」、5つのゼミ(文学系、芸術・表象系、法律系、経済系、会計系)の懇談会、人文学部の今を紹介する4つのパネル展示(ナスカ研究、長井市

との連携協力活動、文化財レスキュー活動及び模擬裁判)、人文学部関連書籍の展示即売会、長井市特産品の販売コーナー、人文学部関連グッズの「お楽しみ大抽選会」など盛りだくさんでした。

“卒業生と大学・在学生との絆を創る！”をテーマとする「人文学部ホームカミングデー」は来年以降も実施する予定です。卒業生の方はもちろん、地域の皆様も是非お越しください。

地域教育文化学部

Faculty of Education, Art and Science

ホームページをリニューアル



ウェブによる情報発信の強化、内容の充実を図るため、地域教育文化学部ホームページのリニューアルを行いました。トップページには、現在の地域教育文化学部のほか、前身となる山形師範学校が入っている貴重な長谷川竹葉作の浮世絵の画像も掲載しております。下部にはサイトマップを掲載し、情報を探しやすくしました。全体的に文字を大きくし見やすくするとともに、各ページのデザインも刷新しました。

本学部は今年度、1学科8コースとして

新たなスタートをきりました。間もなく大学入試が始まりますが、「入学試験情報」の中には、各コースに在学する学生からの応援メッセージも掲載しております。

本学部では、今後とも、学生の方、地域の皆様、卒業生の方、教職員の方々への情報発信に努めていきます。

地域教育文化学部ホームページ
<http://www.e.yamagata-u.ac.jp/>

理学部

Faculty of Science

公開講座「楽しい数学」及び研究室公開を開催



理学部では、10月20日(土)・21日(日)の2日にわたり、公開講座「楽しい数学」を開催しました。大学祭の「八峰祭(やつみねさい)」と同時開催となり、また、ホームカミングデーの行事の一環としても位置づけられ、たくさんの人たちが訪れる賑やかな雰囲気の中、行われました。

今年の講座は、数学に関する様々な講義と、MathSciNetというAMS(American Mathematical Society:米国数学会)が提供する、世界の数学文献をカバーする包括的

な書誌・レビューデータベースを用いて数学論文にアクセスする実演を観ていただくことをテーマにして催されました。

講座では、数学という難解な学問分野が日常生活の身近なところに使用されていることを、先端研究を紹介しながら分かりやすく解説し受講生には大変好評でした。

また、公開講座開催期間中は、研究室公開も行われ、八峰祭を訪れた方やOBの方にもご来場いただき大変好評でした。

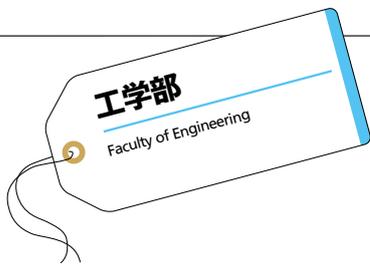


東根市と「悠遊健歩」を開催

10月13日(土)に医学部・東根市・NPO健康さくらんぼ21が主催し、今年で7回目となる「悠遊健歩」が東根市のタントクルセンターで行われました。

医学部からは、運営スタッフとして、看護学科教員、看護師、看護学科学学生、事務職員が参加し、ウォーキング前の血圧、脈拍、身長、体重、握力、骨密度などの測定を担当しました。また、当日は、結城学長も参加し、挨拶の後5キロコースのウォーキングに臨みました。

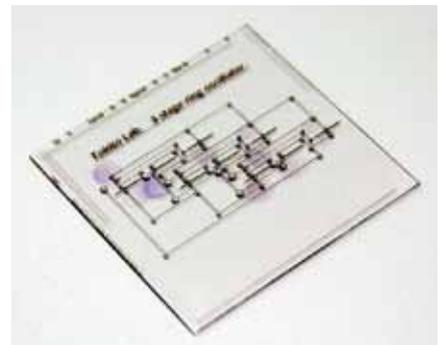
当日は、ウォーキングに丁度良い天候に恵まれ、約190人の参加者は気持ちの良い汗を流した後、お昼には農学部から提供の里芋による芋煮が振る舞われ舌鼓を打ちました。午後には医師で落語家の立川らく朝さんの講演会(ヘルシートークと健康落語)が開催され、盛況の内に無事終了することができました。



世界初 全行程印刷方式による電子回路の試作に成功

9月4日(火)、有機エレクトロニクス研究センターの時任静士教授らの研究グループが、印刷技術で塗布可能な有機素材や銀ナノ粒子インクを用いて擬CMOS(シーモス)インバータの試作に成功したと発表しました。CMOSとは電子回路の一種で、携帯電話やパソコンなどに使われている基礎回路素子です。現在は、作成するために複雑な工程や大型で高コストの設備が必要ですが、印刷法による電子回路の製造技術が

確立すると、大幅な省電力、省資源を達成できる可能性があるため、将来の技術として非常に期待されています。今回試作された擬CMOSは、ガラス基板上に作られたもので、CMOSと同様の性能を示しました。今後は、プラスチック基板上で動作する回路の開発に向けて研究を進め、曲げられる薄型テレビや、シリコン製ICチップにかわる低コストの有機RFIDタグの製造を目指します。



「山形大学農場新米ロックフェスティバル」初開催

10月13日(土)、農学部高坂農場において「農場新米ロックフェスティバル」を開催しました。農学部高坂農場では、年間43tの米を生産していますが、発送販売が多く地域の方々にご賞味いただく機会が少ないことから、今回農場で収穫された新米を地元の方々に振舞い、また一緒に音楽を楽しんでいただく企画したものであり、農学部では初めての試みとなりました。

開催当日は、時折雨がぱらつくものの、予想を上回る来場者数となりました。新米提供

コーナーでは農場や庄内各地で生産された新米を求める長蛇の列で賑わい、学生によるおかず販売や2市3町6次産業ブース、「おしゃべりな畑」受講生の販売コーナーも大盛況でした。農場に設置された手作りのステージ上では、17組のアマチュアバンドによる演奏が行われ、広大な農場全体に音楽が響き渡りました。また、農場で飼育しているポニーやヤギとの触れ合いコーナーやザリガニ釣りなどの子供向けのコーナーもあり、子供から大人まで楽しんでいただきました。



家族任せの育児や介護から ケアを保障する真の福祉国家へ

「産む産まないは女の権利か」「なぜ女性はケア労働をするのか」などの著書を持つ山根先生は社会学博士。再生産労働、ケア労働の社会的配置とジェンダーを研究テーマとしており、特に、男女雇用機会均等法や男女共同参画などが盛んに叫ばれながらも、日本の女性の就労率が30代で激減するM字型就労であることを問題視している。その原因として、育児や介護といったケア

労働が女性に任されていることが挙げられるため、その改善策を模索している。かつての日本型福祉は、育児や介護といったケア労働は家族や地域が担ってくれるものとして、国が予算をかけなくてもいいという意味で「家族は福祉の含み資産」などと言われてきた。その担い手となってきたのが女性であった。1990年代、ケアの脱家族化が叫ばれるようになり、育児休業制度や介護保険制度などがスタートしたものの、保育サービスや育児休業制度などはまだまだ利用しにくく、女性が介護ケアから解放されるには至っていない。

国がケアの脱家族化を推進する方法としては、サービスを提供する「現物給付」、「現金給付」、育児・介護休業法のようなケアする時間を保障する「時間給

山根先生の著書および翻訳を担当した書籍。ケア労働やジェンダーがテーマとあって社会的注目度は高そうだ。



原発事故子ども・被災者支援法の公開座談会のワークショップでの発表。

付」に分けられる。日本の介護保険制度は現物支給に特化しているが、ドイツや北欧の国々では現金給付も行っている。また、イギリスでは「ケアの個人化」政策の中で、高齢者に現金給付を行い、高齢者自らがケアワーカーを雇用する形をとっているが、ケアワーカーの確保や賃金の支払いといった管理業務が高齢者の負担になるというデメリットも指摘されている。

ケアワークをやりがいのある、 人間らしい労働にする重要性

ケアを市場原理に委ねれば、ケアワー



（人文学部） 研究室訪問



クの賃金は女性の平均賃金よりも安くなる。女性は、自分の賃金より低くなければお金を払ってまでケアサービスを利用しないからだ。日本の介護保険制度の場合は準市場型で、一定の条件を満たした事業者を市場に参入させた上で、サービスの価格については介護報酬によって規制するという方法をとっている。しかし、その介護報酬が低いため、介護労働者の賃金はとても低く、離職者の増加を招いている。これでは介護の現場の充実は望めない。「つまり、専門職が担うにしろ、家族が担うにしろ、ケアワークをいかに人間らしい、やりがいのある労働にしていかが21世紀においてもっとも重要な課題と言えます」と山根先生は指摘する。

これは保育についても同様のことが言える。さらに、保育の場合はサービスの充実や現金給付以上にケアする時間の給付がとても重要になってくる。日本でも2007年に「ワークライフバランス」憲章が制定され、仕事と育児の両立が政策課題となっている。本学においても2009年に「男女共同参画推進室」を設置し、育児休業制度の取得の徹底、託児ルームの開設など、地域の模範とな

るべく、男女共同参画の推進に努めている。山根先生も育児休業制度を取得しやすい環境にあったため、心置きなく育児に専念できたという。

被災者ケアに役立ててほしい 子育て避難者アンケート

ケア労働の中でも介護を中心に研究してきた山根先生も、自ら出産・育児を経験したことで、保育分野への関心が高まっていったという。その思いは、原発事故の影響を不安視して山形県内に自主避難している家庭にも向けられた。その多くが仕事で福島を



福島県および山形県内への避難者を対象に実施された調査のアンケート用紙。避難生活の厳しい現状が見え隠れする。



山根純佳

やまねすみか ●人文学部人間文化学科准教授 / 神奈川県出身。2000年早稲田大学教育学部卒業。2009年東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。社会学博士。2012年11月より現職。一児の母でもある。

離れられない父親と離ればなれの母子避難。パートナーが東京の大学勤務のため、山形で母と子だけの生活を送っている山根先生自身と重ね合わせて、何か行動を起こさずにはいられなかった。そこで、日本福祉大学の渡辺頭一郎教授とともに、福島県および山形県内で避難生活を送っている子育て家庭を対象に、アンケート調査や聞き取り調査を実施した。その結果には、放射能被害に対する不安や避難生活による経済的な負担、精神的な孤立感などが顕著に表れており、さらにそうした親が抱える不安や不満を敏感に感じとった子どもたちにも、落ち着きがない、表情が乏しい、不眠、チックなどのさまざまな症状が見られることもわかった。これらの実態を広く知らしめることで、支援の拡充や継続に繋げていってほしいと山根先生は願っている。

子育てから介護まで、 ケア労働の在り方を見直し、 真の男女共同参画を追求。

山根純佳 人文学部 人間文化学科 准教授

女性の社会進出が進んでいるとはいえ、男性が稼ぎ手となり、育児や介護といったケア労働は女性が担うべき、といった風潮がまだまだ日本では根強い。これでは、男女共同参画や少子化問題の解決はままならない。このケア労働を研究テーマとする山根純佳准教授は、震災後の子育て家庭の実態にも関心を寄せ、避難者を中心に実態調査を行い、報告書をまとめた。

震災後の子育て家庭の実態を調査、
よりよい支援とその継続に役立てたい。

山大聖火リレー

山形大学で学んだこと、過ごした日々、
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。
現役山大学生やOBたちが各方面で活躍する姿を追った。



1 クラゲ展示室(クラネタリウム)にて。「クラゲのメッカとなって、世界中から研究者や観光客が集まってくるような水族館にしたい」と語る村上館長。ネクタイは、売店で販売されているオリジナルのクラゲ柄。

2 ノーベル化学賞を受賞した下村脩氏の研究に深く関わっていると、一躍注目を集めたオワンクラゲ。おかげで入館者数は、通常の1.5~2倍に。その縁で2010年春には、下村氏が来館し、一日名誉館長を務めた。

3 「水族館に展示されているクラゲの種類の数」でギネス世界記録に挑戦。2人の海洋生物学者が種類を確認した結果は30種類で、見事世界一に。ギネス社への申請から約2ヶ月後の2012年4月に届いた認定証。

波瀾万丈の館長人生、奇想天外なアイデアで「世界一のクラゲ水族館」を作った男。

村上龍男 鶴岡市立加茂水族館 館長

「人が感心するようではまだまだ。人が笑って本気にしないようなことをやらないと成功はない」とこやかに語るのは、加茂水族館館長の村上龍男さん。来館者も激減していた小さな水族館を、クラゲの展示に特化するなどの斬新な改革で再生させた名物館長として知られているが、本学のOBであることを知る人は意外と少ない。子どもの頃から魚が好きだった村上さんは、当時、農学部で魚の研究をしている先生がいたことから本学に進学したという。卒業後、一度は商社に勤務するも、大学時代の恩師の勧めで加茂水族館に勤務することになる。ところが、その翌年には水族館の経営形態が変わるなどの諸事情により、いきなり館長という重責を担うことになる。ま

だ27歳ながら職員の中では最年長というのがその理由だった。

若き村上館長は大胆な発想で、最悪だった経営状態の立て直しに挑み、成果を上げていった。その度胸は高校・大学時代に培われたもので、特に大学時代には、勉強以外にもさまざまな経験をしたからこそ、自主性が育まれ、豊かな発想につながったのだと振り返る。持ち前の豊かな発想力からクラネタリウムが生まれ、クラゲアイスやクラゲラーメンが商品化されていった。クラゲの展示種類数でギネス世界記録の認定を受けたことも、ノーベル化学賞受賞の下村脩氏の来館がかなったことも、単なるタイムリーやラッキーではない。村上館長ははじめ水族館のスタッフが一丸となって取り

組んだクラゲの研究、時間をかけて深めていった下村氏との友好関係など、すべての成果は努力の賜なのである。

現在、加茂水族館は2014年のリニューアルオープンに向けて、営業を続けながら改築工事を進めている。新しい水族館の建設という大きな目標がかないつつある今、村上館長はすでに次なるビジョンを描いていた。世界中から研究者が集まるクラゲのメッカにすること、クラゲを通して命の教育に貢献すること、そして、観光客も含めた多くの人々を庄内に惹きつけて活性化を牽引し、地域に感謝される存在になりたいという。村上館長が今度はどんな手法で目標を達成するのか、大先輩の活躍からまだまだ目が離せない。

発想の成果

今回のランナー:



村上龍男

むらかみたつお●東京都生まれ。昭和38年山形大学農学部卒業。商社勤務を経て、魚好きを見込まれ加茂水族館へ。昭和42年より館長。大胆な経営戦略で寂れた水族館を見事再生させた。



松浦恵

まつうらめぐみ●地域教育文化学部音楽芸術コース3年。山形県出身。宮城県内の大学でフルートを専攻するも、声楽への転向を機に本学へ。初挑戦の「東京国際声楽コンクール」で第1位に入賞。

フルートで行き詰まり、声楽で開花。 在学生としては初の全国コンクール1位の快挙。

転身の成果

松浦恵 地域教育文化学部 音楽芸術コース 3年

松浦恵さんは音楽好きの両親の勧めで、小学4年生からフルートを続けていた。「ずっとフルートとともにありたい」との思いで、山形北高音楽科でフルートを専攻し、その後宮城学院女子大学音楽科でフルートを専攻したものの、1年次の途中で壁に突き当たり、フルートや音楽を続けられるかすら分からなくなった時、声楽の存在が支えになった。そして、恩師である藤野恵美子先生にも相談し、声楽を学ぶ決意をした。翌年、改めて本学音楽芸術コースへの入学を果たし、それからは歌うことを楽しんでいる。

2年次には学生オペラの公演で主役に抜擢され、3年次になって初めて挑んだ「第4回東京国際声楽コンクール」大学生部門

でいきなりの1位入賞。在学中に全国コンクールで1位になるのは同学部では初の快挙だという。南東北予選、東日本准本選を通過した松浦さんは、都内で9月に開かれた本選に出場し、ベッリーニの歌曲とドニゼッティのアリアを披露。審査員8名中5名が、出場者44名の中から松浦さんに1位の得点をつけたというからその評価は圧倒的。一般的な声楽家のイメージからすると、かなり華奢な印象の松浦さんだが、指導する藤野祐一教授は、「曲を歌うだけでなく、役柄に入れる才能がある。技術的には課題もあるが、音楽性、芸術性が評価されたのだろう」と分析。松浦さん自身も「声楽は、体そのものが楽器なので他の楽器のように長時間にわたるレッスンは不可能。

歌を歌う時間が1～2時間だとすると、楽譜と向き合い楽曲分析などをする時間も必要です」と、技術同様に内面的なものを大切にしていることを明かしてくれた。そして、今回のコンクールで演奏における内面的な表現力が評価されての1位ということがとてもうれしく、自信にもつながったという。また、予選、准本選、本選と大舞台になるほど落ち着いて取り組めたと、本番に強い一面を覗かせた。

今後は、学内での公開試験や学生オペラ公演などで経験を積み、さらにヨーロッパで本場のオペラにも触れ、いつの日か人々に感動を伝えられるような歌手になれば、と静かな闘志を燃やしている。



1



2



3

1 学内の音楽室でピアノの音に合わせて発声練習をする松浦さん。メゾソプラノの美しい声が心地よく響く。これがコンクール1位の声。声楽家にとって華奢な体型は不利であるため、筋力をつける努力をしている。

2 観客の前に歌声を披露する松浦さん。コンクールの審査員から高い評価を受けた表現力で感動を伝える。歌う楽曲や作曲者について勉強し、深い理解があってこそその成果でもある。

3 「第4回東京国際声楽コンクール」で授与された賞状とトロフィー。初めての挑戦で、本選に進めるとは思っていなかったという松浦さん。大学生部門第1位入賞に一番驚いていたのは彼女自身だった。

Instituto Nasca de la Universidad de Yamagata

ナスカ研究所を開所

開所式については、人文学部ホームページおよび公式 facebook ページで紹介しています。



鉄筋2階建て。延床面積約500㎡の研究所

山形大学人文学部附属ナスカ研究所が、10月30日(火)にペルー共和国ナスカ市に開所しました。開所式には結城章夫山形大学学長、北川忠明人文学部長・ナスカ研究所初代所長をはじめとして、山形大学の役員・教員・職員が合計8名出席したほか、福川正浩在ペルー日本大使、ナスカ市長、ペルー文化省代表にもご出席いただきました。この他にも、山形大学調査団と交流のあった在ペルー山形県人会、考古学者、ナスカ市民が約100名参加され、開所式が盛大に行われました。

開所式では、結城学長から、山形大学ナスカ研究所が世界中の多くの人々の好奇心を刺激する調査・研究の拠点となることを願っているという趣旨の挨拶があり、ペルー文化省の代表からは、山形大学の調査研究に期待している旨の発言がありました。

山形大学ナスカ研究所は、ユネスコの世界文化遺産である「ナスカの地上絵」を長期にわたって研究するための拠点として設立されました。「ナスカの地上絵」は

世界的に有名ですが、これまで本格的な調査が行われてきたとは言いがたく、地上絵の分布状況の把握ですら不十分でした。地上絵が描かれたナスカ台地が広大なため、手間のかかる実態調査が避けられてきた経緯があります。現在、「ナスカの地上絵」で現地調査を実施しているのは、世界で唯一山形大学調査団だけであり、我々は地上絵に関する徹底的な実態調査を行うことを目指しています。

式典の終了後は、研究所においてパネル展示およびビデオ上映会を催し、山形大学および山形県の概要を紹介するとともに、山形大学調査団の研究目的、手法と成果、今後の課題などを発表しました。パネル展示とビデオ上映会はスペイン語と日本語で行い、その準備は調査団に所属する日本とペルーの学生と若手研究者に全面的に手伝っていただきました。

今後、地上絵に関する科学研究を推進するとともに、地元社会と連携するための拠点として、研究所を活用したいと考えています。



ナスカ研究所開所式には、福川正浩在ペルー日本大使、Eusebio Alfonso Canalesナスカ市長、結城章夫山形大学学長が臨席



ナスカ研究所開所式には約100名の関係者が参加



ナスカ市内に建設された研究所



分析・実験室(1階)



テラス(1階)

山形大学の海外サテライト

みなさんは、山形大学の海外サテライトをご存じでしょうか?山形大学では、学術交流協定を締結しているベトナムのハノイ農業大学内にサテライトオフィスを設置し、研究交流、学生交流等において機能的に活用しています。また、共同研究に関する協定を締結しているスイスの欧州原子核研究機構(CERN)では、研究交流の窓口として、本学教員が常駐しているCERN内のオフィスを利用しています。今後、ケニア、ペルー等へのサテライトオフィスの設置も計画してお

り、学生や教員の交流、国際共同研究等のさらなる活性化が期待されます。

今年4月に渉外課に国際交流担当として赴任した大崎直太教授は、海外サテライトオフィスや学術交流協定校に数ヶ月単位で駐在し、山形大学の情報発信、現地と本学の学生や教員の交流や共同研究をコーディネートする等、国際交流の多面的な展開をサポートしています。動物生態学及び進化生態学が専門で、現在は、ケニアのナイロビにあるジョモ・ケニアアッタ農工大学(JKUAT)に駐在中で、

来年1月まで駐在する予定です。これまでも、ハノイ農業大学に1ヶ月、中国の延辺大学に3ヶ月駐在しており、現地では、日本語クラスを設けて本学の学生をチューターとして派遣したり、日本語や英語で自身の専門分野の講義を行う等、実質的な両校の交流に尽力いただいています。その駐在記は山形大学のホームページ「大崎教授の海外駐在記」で紹介していますので、是非ご覧ください。



サテライトオフィス(ハノイ農業大学内)



ジョモ・ケニアアッタ農工大学農学部での講演



延辺大学外国語学部日本語学科での講演

学生コーナー

スペインでのインターンシップ

大学院理工学研究科博士前期課程 機械システム工学専攻
1年 高橋洋人

私は、現在日欧産業協力センターが主催する、*グルカヌス in ヨーロッパという海外インターンシッププログラムに参加しており、スペインのIDIADAという自動車の試験、認証を行なっている会社で研修を行なっています。

私がこのプログラムに参加したいと思った動機は、長い伝統から培われた専門性と、新規性が一体となっている欧州企業で、実践的な仕事を体験したいと考えたからです。

スケジュールは語学研修4ヶ月、企業研修8ヶ月となっており、まず4月から7月までバルセロナの語学学校に通いました。このプログラムが始まるまで、スペイン語には触れたことすらなかったため、まずホストファミリーとの会話、そして授業もすべてスペイン語で行われたため、全てが必死でした。しかし、共通の趣味を持った教師とはすぐ意気投合することができ、そのとき言葉の壁を超えたことを実感しました。また、ホームス

テイ先では入れ替わり来る海外の学生たちと夕食を共にすることができ、とてもいい出会いの場となりました。今でも連絡を取り合っている人もいます。

そして8月から企業研修が始まりました。私の職場はブレーキの試験を専門にしており、性能はもちろん、踏み心地やブレーキから発生する騒音について、実務を通してより深く学んでいるところです。私の職場にはスペイン人、主に地元のカタルーニャ人が多く勤めており、圧

倒的な語彙の多さと彼らの間で話されるカタラン語から、また言葉の壁を感じましたが、仲間として積極的にコミュニケーションを取っています。

残りもわずかとなりましたが、これからも初心を忘れずに邁進していきたいと思えます。

*グルカヌス in ヨーロッパ: 将来の日欧関係を担う若者育成のための日本の理工系学生を対象とした1年間の奨学金付プログラムで、欧州での4ヶ月間の語学研修と8ヶ月間の企業インターンシップから成り、山形大学からは高橋さんが初めての参加です。



グエル公園からのバルセロナ全景



語学学校のメンバーと。(後列左端が高橋さん)

式典行事

平成24年度 学位記・修了証書授与式

●農学部

日時／3月17日(日) 11:00～
場所／東京第一ホテル鶴岡(鶴岡市)

●工学部

日時／3月20日(水・祝) 10:00～
場所／米沢市営体育館(米沢市)

●人文学部、地域教育文化学部、理学部、医学部

日時／3月25日(月) 10:00～
場所／山形県体育館(山形市)



卒業研究発表会

地域教育文化学部

学科・コースで行われている研究や活動を知る好機ですので、ぜひおいでください。

入場料／無料

●地域教育学科

日時／2月9日(土) 9:30～
場所／地域教育文化学部1号館
問い合わせ／鈴木研究室

TEL 023-628-4427

備考／多様な専門分野を持つ教員の指導のもとで、学生が2年間続けてきた卒業研究の結果を発表します。

●文化創造学科音楽芸術コース

日時／1月24日(木)、25日(金) 17:00開演
場所／山形テルサ テルサホール(山形市)
問い合わせ／音楽芸術コース 菅野

TEL 090-9635-0777

備考／24日:声楽・ピアノの部

25日:管弦楽・弦楽器・打楽器の部

●大学院地域教育文化研究科文化創造専攻 音楽芸術分野

時／1月28日(月)、29日(火) 18:30開演
場所／山形県郷土館(文翔館)議場ホール
(山形市)

問い合わせ／藤野研究室

TEL 023-628-4330

備考／28日:ピアノ・管楽器の部

29日:声楽の部

●文化創造学科造形芸術コース・

大学院地域教育文化研究科文化創造専攻
造形芸術分野

日時／2月7日(木)～11日(月)
10:00～17:00(最終日13:00まで)
2月10日(日)
11:00～ 修士研究発表会
14:00～ ギャラリートーク

場所／山形美術館2階第3展示室(山形市)
問い合わせ／和田研究室

TEL 023-628-4345

なお、本学と愛媛大学芸術文化課程造形芸術
コースとの合同卒業展覧会も開催します。

日時／3月1日(金)～6日(水)

9:00～17:45(最終日13:00まで)

場所／キャンパスイノベーションセンター5階
(東京都港区芝浦3-3-6)
(JR山手線・京浜東北線 田町駅下車
芝浦口より徒歩1分)

●文化創造学科スポーツ文化コース

日時／2月14日(木) 時間は未定
場所／未定

問い合わせ／竹田研究室

TEL 023-628-4819

●文化創造学科異文化交流コース

日時／2月21日(木)
場所／基盤教育2号館222教室
問い合わせ／加藤研究室

TEL 023-628-4359

●生活総合学科生活環境科学コース

日時／2月8日(金) 時間は未定
場所／地域教育文化学部会議室
問い合わせ／佐藤研究室

TEL 023-628-4377

備考／卒業論文・建築卒業設計発表会です。

農学部

●生物生産学科

日時／2月21日(木) 13:00～17:00(予定)
場所／学外(鶴岡市内)
発表形式／ポスター発表



つながる力

正確な情報の発信 リスナーと信頼のきずな
——そして、共感、感動の音楽



株式会社 エフエム山形 www.rfm.co.jp

山形 80.4MHz / 鶴岡 76.9MHz / 新庄 78.2MHz / 米沢 77.3MHz

携帯サイト
QRコード



山形大学の行事・催事のご案内です。
地域に根ざした大学としてみなさんのご参加をお待ちしています。

日時／2月26日(火) 農業生産学講座
2月27日(水) 生態制御学講座
場所／農学部3号館3階301講義室
発表形式／口頭発表
問い合わせ／教育支援室(生物生産学担当)
TEL 0235-28-2901

●生物資源学科

日時／2月20日(水) 9:00～15:45
場所／農学部3号館1階
(101、102、103講義室)
発表形式／ポスター発表
問い合わせ／教育支援室(生物資源学担当)
TEL 0235-28-2819

●生物環境学科

日時／2月18日(月) 森林環境資源学講座
2月19日(火) 地域環境科学講座
※両日とも8:50～17:00
場所／農学部3号館3階301講義室
発表形式／口頭発表
問い合わせ／教育支援室(生物環境学担当)
TEL 0235-28-2843

公開講座等

人文学部

博物学の巨人・鳥羽源蔵が 遺したもの

—陸前高田の文化財レスキューから見えてきたこと—

日時／1月11日(金) 16:20～18:30
場所／人文学部1号館103教室
対象／一般の方
参加費／入場無料
問い合わせ／人文学部 三上喜孝准教授
TEL 023-628-4240

地域教育文化学部

第17回 YCMオペラ本公演 『オルフェオとエウリディーチェ』

日時／3月2日(土) 14:00開演
場所／遊学館ホール
対象／一般の方
入場料／500円
問い合わせ／地域教育文化学部
藤野研究室
TEL 023-628-4330

第41回 室内楽の夕べ

日時／3月10日(日) 16:00開演
会場／文翔館講堂ホール
対象／一般の方

入場料／300円
問い合わせ／柴田
TEL 090-7528-7550

理学部

小さな科学者 体験学習会 マイナス200度の世界

日時／3月9日(土) 13:30～15:30
場所／SCITA(サイタ)センター
(山形大学理学部1号館1階)
対象・募集人数／小学4年生～中学生(定員
20人)およびその保護者の方
参加費／無料
問い合わせ／理学部事務室
TEL 023-628-4505
FAX 023-628-4510

工学部

第4回 6学部対抗雪合戦大会

日時／2月10日(日)
場所／工学部グラウンド(米沢市)
問い合わせ／工学部学務課学生支援担当
TEL 0238-26-3017



農学部

第3回(冬)森の学校

日時／3月2日(土) 8:45～16:00
場所／農学部附属やまがたフィールド
科学センター上名川演習林(鶴岡市)
参加費／500円
対象／小学校3年～6年生
問い合わせ／農学部事務室(附属施設担当)
TEL 0235-24-2278



その他

平成24年度 山形大学OBセミナー

日時／3月2日(土) 10:30～14:30
(当日のスケジュール等については未定)
場所／山形大学東京サテライト
キャンパスイノベーションセンター1階
国際会議室(東京都港区芝浦3-3-6)
対象／山形大学卒業生
問い合わせ／TEL 03-5440-9071

キャンパス・イルミネーション

小白川キャンパス イルミネーション

今年で7年目となる小白川キャンパスのイルミネーション。1万球のLED(発光ダイオード)が彩り豊かに輝いています。
期間／2月上旬～2月末
場所／小白川キャンパス正門ロータリー
点灯時間／16:30～21:00



工学部キャンパス イルミネーション

このLED(発光ダイオード)による電飾は今年で9年目となります。
期間／12月上旬～2月末
場所／工学部(米沢キャンパス)の百周年記念会館前広場
点灯時間／16:00～23:00

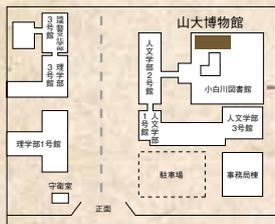


山大博物館

YAMADAI MUSEUM

シリーズ ②

山形大学附属博物館の
収蔵品をはじめ、
大学が誇る貴重な資料を
紹介いたします。



図書館及び博物館は学外の方もご利用いただけるように開放しております。利用方法等は図書館カウンターにお申し出ください。知的宝物がいっぱいの図書館・博物館に是非お越しください。

江戸時代、庶民の間ではいろいろなものを番付風にして並べることが流行しました。もともと「番付」は、芝居興行の際に出演者などを一覧にした刷り物が始まりといわれますが、相撲が盛んになる江戸中期以降にはこのように相撲番付の様式に落ち着いたようです。

この資料は、幕末の元治元年(1864)、恵美酒講(恵比須講)の売り出しに際して宣伝用かサービス用として配られたもので、最上(山形城下を中心に)の名所・名産・名物を序列化して記しています。番付とは「順番付け」の意味ですから、現代風にいえば「発表! 山形百選一覧」ともいえるのではないのでしょうか。

中央部には、行司・世話人・勧進元・差添の場所や寺院などが名を連ね、東方先頭から「月山」「最上川」「大沼ノ浮島」、西方先頭から「最上ノ紅花」「最上ノ青苧」「雁喰大豆(黒色でくぼみのある大豆)」と続きます。この番付は、近世に

おける最上紅花を語る資料としてよく利用されますが、見どころはそれだけではありません。上から四段目あたりになると、直径5mmに満たない文字で誌面では読みにくいのですが、「薬師寺林鳥ノスナシ」(鳥の巣なし)、「須川ニ魚ナシ」などの珍名所も登場してきます。現在でも山形の名所・名産・名物として名が売れているもの、反対に「天童イガモチ(稲花餅)」「塗師町将棋所」など今となっては「はて? さて?」となってしまったものなど、幕末頃の県内の特産品や名所を知る上でも貴重な資料となっています。

当時の人々はこのような番付を見て近隣地域の情報を得て、日々話題にしていたのかもしれない。

今、皆様がお住まいの町、生まれ育った町ははたしてどんなものが有名だったのでしょうか。一度じっくりながめにいらっしやいませんか。

(附属博物館 高橋加津美)



最上名産名物番付

紙製
45×34.5センチ

表紙のことば

フレックス大学院の企画立案に携わった教員チーム。後列左より小田公彦教授、佐野多紀子教授、松葉豪准教授、古川英光教授、前列左より飯塚工学部長、神戸士郎工学部副学部長。

●この「みどり樹」は山形大学ホームページでもご覧になれます。

山形大学 みどり樹 検索

●「みどり樹」に対するご意見・ご質問等をお気軽にお寄せください。
E-mail: koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

●「みどり樹」は、3月、6月、9月、12月に発行する予定です。

編集後記 Editor's Note

初雪が降り、本格的な冬が到来し、また、雪との格闘の時期がやってきました。みどり樹の編集にたずさわり2年、大学の先生方から学生、そして卒業生に至るまでの活躍の情報を知ることができ、感銘を受けています。今季号は、フロンティア有機材料システム分野を担う、グローバルリーダー育成のために設立された工学部のフレックス大学院と、東日本大震災後の子育て家庭の実態調査とその提言を行ってこられた人文学部にもスポットをあてた内容となっています。今後も、みどり樹をご愛読していただきますようよろしくお願いいたします。

(みどり樹編集委員会委員 N.M.)

—地域に根ざし、世界を目指す—

山形大学
Yamagata University

山形大学ホームページ <http://www.yamagata-u.ac.jp/index-j.html>